

# Demon Dance

*open score with traditional taiko music and orchestral  
instruments*

(2024)

D a i F u j i k u r a

**Commissioned by Japan Philharmonic Orchestra**

World Premiere:

August 20, 2024, Suntory Hall, Tokyo, Japan

OCHIAI Yoichi (Director, Producer)

EBIHARA Hikaru (Conductor)

WOW (Visual Performer)

Japan Philharmonic Orchestra

## 全体のルール：

全体のハーモニー／セクションは、セクションからセクションへ移る時にはギャップは無く、続いて流れるように演奏されること。

ハーモニー／セクション1、2は：

**重要：個々で何も弾かない（音を出さない）休符の部分を必ず取ること。常に音を弾いている状態にはならないこと。**

**弾いては、少し休み、また弾いて、という感じで。**

## 全体の提案。

太鼓はいつ叩かれても良い。できれば、途中、太鼓が演奏せず、オーケストラのみ演奏する部分も作ると良いと思う。

## 構成の提案：

まず太鼓が演奏を始める。

少し経ってから、太鼓が演奏を続ける中、オーケストラがハーモニー／セクション1を演奏し始める。

少し経ってから、SOLO Melody A, B, Cを演奏する人たちが出てくる。

その少しあとに、LOW melody Tuttiがゆったりと演奏に追加される。

そうしているうちに、太鼓が一旦演奏を止め、

スムーズにハーモニー／セクション2に入る。（この時点では、SOLO Melody A/B/Cは演奏をしていない）

LOW melody Tuttiは、前のセクションからの演奏がまだ続いている

そんな中、HIGH Melody Tutti ゆったりと演奏を始める。1回か、2回演奏される。美しく。

その途中でBrass Chordsが演奏開始（リピートで）

太鼓が演奏再開、ハーモニー／セクションは3へ。（バックグラウンドで弾いている「ハーモニー」は無い）

急にSOLO Melody D, E, F, Gが激しく演奏を開始。

この時点でLOW melody Tuttiは演奏していない

Brass Chordsは前のセクションからの演奏が続いている（リピートで）

太鼓が続く中、スムーズに、ちょっとびっくりな感じで、ハーモニー／セクション4へ。

ここは全員がハーモニー／セクション4の音を演奏。（Brass ChordsももSOLOを弾かず、ハーモニー／セクション4の音列を全員で。トレモロ、激しく）。

このセクションはそこまで長くなく、

そのあと、ハーモニー／セクション5へ。全員で。指揮者をよく見て、そしてだんだんと狭まってくるように、速くなる。太鼓は続いている。

そして、最終ハーモニー／セクション6へ。全員が盛り上がり、太鼓もオーケストラも一緒に終わる。

(The score is in C)

# Demon Dance

open score with traditional taiko music and orchestral instruments  
(2024)

Dai Fujikura

## ハーモニー／セクション

音程は書かれているオクターヴで演奏すること。  
書かれてある音列を、いろんな音色の演奏方法で弾くこと、  
ただし、ゆったりと、Calmに、アグレッシブにならないように、あまり音程を頻繁に変えたりせず、あくまで「バックグラウンドのハーモニー」であることを忘れずに。mp以上の強さで弾かないこと。休符を所々作るように。弾きっぱなしにならないように。

書かれている音程はどのオクターヴで演奏してもよい。  
(いろんな音色の演奏方法で弾くこと) 全体の感触は、狂気、アグレッシブ、激しい感じ。ハーモニー1、2、3のセクションとは対照的に。

TUTTIでこの和音を、この強弱で弾く。何回も繰り返す。繰り返すごとに段々速く(和音と和音の間が狭まる)どのオクターヴで演奏しても良いが、最低音程は、G#で。

TUTTIでこの和音を弾く。長く、そしてこれでこの曲を終える。どのオクターヴで演奏しても良いが、最低音程は、C#で。

**ハーモニー1**を演奏している時にのみ、SOLO Melody A, B とCが演奏されても良い。

SOLO Melodyを弾いていない奏者は、ハーモニー1を演奏すること。

SOLO Melodyは何回演奏されても良い。好きなオクターヴで弾いて良い(転調はせずに) メロディは必ずレガートで演奏。繰り返して弾いても良い。

### SOLO Melody A

### SOLO Melody B

### SOLO Melody C

**ハーモニー1と2**を演奏している時に、LOW melodyをどこかで演奏すること。

音程が楽器の音域より低い場合は、その音だけ1オクターヴあげても良い。

メロディは必ずレガートで演奏。繰り返して弾いても良い。

Melodyを弾いていない奏者は、ハーモニーを演奏すること。

### LOW melody Tutti ゆったりと

**ハーモニー2**を演奏している時に、Melody 1をどこかで演奏すること。グループで演奏。

好きなオクターヴで弾いて良い（転調はせずに）が、高音域で演奏すること。High Melodyを弾いていない奏者は、ハーモニー2やLow Melody, Brass Chordsを演奏する（しても良い）

HIGH Melody Tutti ゆったりと

Musical notation for HIGH Melody Tutti, measures 1-16. The score is written in treble clef with a 3/4 time signature. It features a melodic line with various intervals and rests, including a long phrase starting at measure 7. The dynamics are marked with a 'f' (forte) at the beginning of the phrase.

Brass Chords

**ハーモニー 2とセクション3**の時に、Brass Chordsを金管楽器で、どこかで演奏すること。和音の音が全部演奏されるように。繰り返しても良いが、あまり多く繰り返さないこと。Fluttertongueで吹きたい場合は、そうしても良いが、その場合は全員がそうするように。Brass Chordsを吹いていない奏者は、ハーモニー2やLow Melody, High Melodyを演奏する。

Musical notation for Brass Chords, measures 17-20. The score is written in grand staff (treble and bass clefs) with a 4/4 time signature. It consists of sustained chords in both hands, marked with a 'f' (forte) dynamic.

**セクション3**の時に、何回も繰り返して、SOLO Melody D, E, F, Gを弾くこと。

全体の感じは「狂気」、Manicな感じ。

SOLO Melody D

速いテンポで、ちょっとナーヴァスに。

Musical notation for SOLO Melody D, measures 1-4. The score is written in treble clef with a 4/4 time signature. It features a fast, rhythmic melodic line with eighth notes and chords, marked with a 'f' (forte) dynamic.

SOLO Melody E

速いテンポで、ちょっとナーヴァスに。

Musical notation for SOLO Melody E, measures 5-8. The score is written in treble clef with a 4/4 time signature. It features a fast, rhythmic melodic line with eighth notes and chords, marked with a 'f' (forte) dynamic. There are triplets indicated in the first few measures.

SOLO Melody F

速いテンポで、ちょっとナーヴァスに。

Musical notation for SOLO Melody F, measures 9-12. The score is written in treble clef with a 4/4 time signature. It features a fast, rhythmic melodic line with eighth notes and chords, marked with a 'f' (forte) dynamic.

SOLO Melody G

速いテンポで、ちょっとナーヴァスに。

Musical notation for SOLO Melody G, measures 13-16. The score is written in treble clef with a 4/4 time signature. It features a fast, rhythmic melodic line with eighth notes and chords, marked with a 'f' (forte) dynamic.

## 全体のルール：

全体のハーモニー／セクションは、セクションからセクションへ移る時にはギャップは無く、続いて流れるように演奏されること。

ハーモニー／セクション1、2は：

**重要：個々で何も弾かない（音を出さない）休符の部分を必ず取ること。常に音を弾いている状態にはならないこと。**

**弾いては、少し休み、また弾いて、という感じで。**

## 全体の提案。

太鼓はいつ叩かれても良い。できれば、途中、太鼓が演奏せず、オーケストラのみ演奏する部分も作ると良いと思う。

## 構成の提案：

まず太鼓が演奏を始める。

少し経ってから、太鼓が演奏を続ける中、オーケストラがハーモニー／セクション1を演奏し始める。

少し経ってから、SOLO Melody A, B, Cを演奏する人たちが出てくる。

その少しあとに、LOW melody Tuttiがゆったりと演奏に追加される。

そうしているうちに、太鼓が一旦演奏を止め、

スムーズにハーモニー／セクション2に入る。（この時点では、SOLO Melody A/B/Cは演奏をしていない）

LOW melody Tuttiは、前のセクションからの演奏がまだ続いている

そんな中、HIGH Melody Tutti ゆったりと演奏を始める。1回か、2回演奏される。美しく。

その途中でBrass Chordsが演奏開始（リピートで）

太鼓が演奏再開、ハーモニー／セクションは3へ。（バックグラウンドで弾いている「ハーモニー」は無い）

急にSOLO Melody D, E, F, Gが激しく演奏を開始。

この時点でLOW melody Tuttiは演奏していない

Brass Chordsは前のセクションからの演奏が続いている（リピートで）

太鼓が続く中、スムーズに、ちょっとびっくりな感じで、ハーモニー／セクション4へ。

ここは全員がハーモニー／セクション4の音を演奏。（Brass ChordsももSOLOを弾かず、ハーモニー／セクション4の音列を全員で。トレモロ、激しく）。

このセクションはそこまで長くなく、

そのあと、ハーモニー／セクション5へ。全員で。指揮者をよく見て、そしてだんだんと狭まってくるように、速くなる。太鼓は続いている。

そして、最終ハーモニー／セクション6へ。全員が盛り上がり、太鼓もオーケストラも一緒に終わる。

The score is in B-flat

# Demon Dance

open score with traditional taiko music and orchestral instruments  
(2024)

Dai Fujikura

## ハーモニー／セクション

音程は書かれているオクターヴで演奏すること。

書かれてある音列を、いろんな音色の演奏方法で弾くこと、

ただし、ゆったりと、Calmに、アグレッシブにならないように、あまり音程を頻繁に変えたりせず、あくまで「バックグラウンドのハーモニー」であることを忘れずに。mp以上の強さで弾かないこと。休符を所々作るように。弾きっぱなしにならないように。

書かれている音程はどのオクターヴで演奏してもよい。

(いろんな音色の演奏方法で弾くこと) 全体の感触は、狂気、アグレッシブ、激しい感じ。ハーモニー1、2、3のセクションとは対照的に。

TUTTIでこの和音を、この強弱で弾く。何回も繰り返す。繰り返すごとに段々速く(和音と和音の間が狭まる)

どのオクターヴで演奏しても良いが、最低音程は、G#で。

TUTTIでこの和音を弾く。長く、そしてこれでこの曲を終える。

どのオクターヴで演奏しても良いが、最低音程は、C#で。

**ハーモニー1**を演奏している時にのみ、SOLO Melody A, B とCが演奏されても良い。

SOLO Melodyを弾いていない奏者は、ハーモニー1を演奏すること。

SOLO Melodyは何回演奏されても良い。好きなオクターヴで弾いて良い(転調はせずに) **メロディは必ずレガートで演奏。繰り返して弾いても良い。**

### SOLO Melody A

### SOLO Melody B

### SOLO Melody C

**ハーモニー1と2**を演奏している時に、LOW melodyをどこかで演奏すること。

音域が楽器の音域より低い場合は、その音だけ1オクターヴあげても良い。

**メロディは必ずレガートで演奏。繰り返して弾いても良い。**

**Melodyを弾いていない奏者は、ハーモニーを演奏すること。**

### LOW melody Tutti ゆったりと

**ハーモニー2** を演奏している時に、Melody 1をどこかで演奏すること。グループで演奏。

好きなオクターヴで弾いて良い（転調はせずに）が、高音域で演奏すること。High Melodyを弾いていない奏者は、**ハーモニー2**や**Low Melody, Brass Chords**を演奏する（しても良い）

HIGH Melody Tutti ゆったりと

Musical notation for HIGH Melody Tutti, measures 1-16. The score is written on a single staff in treble clef with a 3/4 time signature. It features a melodic line with various accidentals and a final whole note chord.

Brass Chords

**ハーモニー 2とセクション3** の時に、Brass Chords を金管楽器で、どこかで演奏すること。和音の音が全部演奏されるように。繰り返しても良いが、あまり多く繰り返さないこと。Fluttertongueで吹きたい場合は、そうしても良いが、その場合は全員がそうするように。Brass Chordsを吹いていない奏者は、**ハーモニー2**や**Low Melody, High Melody** を演奏する。

Musical notation for Brass Chords, measures 17-20. The score is written on a grand staff (treble and bass clefs) in 4/4 time. It consists of four measures of sustained chords, each marked with a forte (f) dynamic.

**セクション3** の時に、何回も繰り返して、SOLO Melody D, E, F, Gを弾くこと。

全体の感じは「狂気」、Manicな感じ。

SOLO Melody D

速いテンポで、ちょっとナーヴァスに。

Musical notation for SOLO Melody D, measures 1-4. The score is written on a single staff in treble clef with a 4/4 time signature. It features a fast, melodic line starting with a forte (f) dynamic.

SOLO Melody E

速いテンポで、ちょっとナーヴァスに。

Musical notation for SOLO Melody E, measures 5-8. The score is written on a single staff in treble clef with a 4/4 time signature. It features a fast, melodic line with triplets, starting with a forte (f) dynamic.

SOLO Melody F

速いテンポで、ちょっとナーヴァスに。

Musical notation for SOLO Melody F, measures 1-6. The score is written on a single staff in treble clef with a 4/4 time signature. It features a fast, melodic line with triplets, starting with a forte (f) dynamic.

SOLO Melody G

速いテンポで、ちょっとナーヴァスに。

Musical notation for SOLO Melody G, measures 8-11. The score is written on a single staff in treble clef with a 4/4 time signature. It features a fast, melodic line with triplets, starting with a forte (f) dynamic.

## 全体のルール：

全体のハーモニー／セクションは、セクションからセクションへ移る時にはギャップは無く、続いて流れるように演奏されること。

ハーモニー／セクション1、2は：

**重要：個々で何も弾かない（音を出さない）休符の部分を必ず取ること。常に音を弾いている状態にはならないこと。**

**弾いては、少し休み、また弾いて、という感じで。**

## 全体の提案。

太鼓はいつ叩かれても良い。できれば、途中、太鼓が演奏せず、オーケストラのみ演奏する部分も作ると良いと思う。

## 構成の提案：

まず太鼓が演奏を始める。

少し経ってから、太鼓が演奏を続ける中、オーケストラがハーモニー／セクション1を演奏し始める。

少し経ってから、SOLO Melody A, B, Cを演奏する人たちが出てくる。

その少しあとに、LOW melody Tuttiがゆったりと演奏に追加される。

そうしているうちに、太鼓が一旦演奏を止め、

スムーズにハーモニー／セクション2に入る。（この時点では、SOLO Melody A/B/Cは演奏をしていない）

LOW melody Tuttiは、前のセクションからの演奏がまだ続いている

そんな中、HIGH Melody Tutti ゆったりと演奏を始める。1回か、2回演奏される。美しく。

その途中でBrass Chordsが演奏開始（リピートで）

太鼓が演奏再開、ハーモニー／セクションは3へ。（バックグラウンドで弾いている「ハーモニー」は無い）

急にSOLO Melody D, E, F, Gが激しく演奏を開始。

この時点でLOW melody Tuttiは演奏していない

Brass Chordsは前のセクションからの演奏が続いている（リピートで）

太鼓が続く中、スムーズに、ちょっとびっくりな感じで、ハーモニー／セクション4へ。

ここは全員がハーモニー／セクション4の音を演奏。（Brass ChordsももSOLOを弾かず、ハーモニー／セクション4の音列を全員で。トレモロ、激しく）。

このセクションはそこまで長くなく、

そのあと、ハーモニー／セクション5へ。全員で。指揮者をよく見て、そしてだんだんと狭まってくるように、速くなる。太鼓は続いている。

そして、最終ハーモニー／セクション6へ。全員が盛り上がり、太鼓もオーケストラも一緒に終わる。

# Demon Dance

open score with traditional taiko music and orchestral instruments  
(2024)

Dai Fujikura

## ハーモニー／セクション

音程は書かれているオクターヴで演奏すること。

書かれてある音列を、いろんな音色の演奏方法で弾くこと、

ただし、ゆったりと、Calmに、アグレッシブにならないように、あまり音程を頻繁に変えたりせず、あくまで「バックグラウンドのハーモニー」であることを忘れずに。mp以上の強さで弾かないこと。休符を所々作るように。弾きっぱなしにならないように。

書かれている音程はどのオクターヴで演奏してもよい。  
(いろんな音色の演奏方法で弾くこと) 全体の感触は、狂気、アグレッシブ、激しい感じ。ハーモニー1、2、3のセクションとは対照的に。

TUTTIでこの和音を、この強弱で弾く。何回も繰り返す。繰り返すごとに段々速く(和音と和音の間が狭まる)どのオクターヴで演奏しても良いが、最低音程は、G#で。

TUTTIでこの和音を弾く。長く、そしてこれでこの曲を終える。どのオクターヴで演奏しても良いが、最低音程は、C#で。

**ハーモニー1** を演奏している時にのみ、SOLO Melody A, B とCが演奏されても良い。

SOLO Melodyを弾いていない奏者は、ハーモニー1を演奏すること。

SOLO Melodyは何回演奏されても良い。好きなオクターヴで弾いて良い(転調はせずに) メロディは必ずレガートで演奏。繰り返して弾いても良い。

### SOLO Melody A

### SOLO Melody B

### SOLO Melody C

**ハーモニー1と2** を演奏している時に、LOW melodyをどこかで演奏すること。

音域が楽器の音域より低い場合は、その音だけ1オクターヴあげても良い。

メロディは必ずレガートで演奏。繰り返して弾いても良い。

Melodyを弾いていない奏者は、ハーモニーを演奏すること。

### LOW melody Tutti ゆったりと

**ハーモニー2** を演奏している時に、Melody 1をどこかで演奏すること。グループで演奏。

好きなオクターヴで弾いて良い（転調はせずに）が、高音域で演奏すること。High Melodyを弾いていない奏者は、**ハーモニー2**や**Low Melody, Brass Chords**を演奏する（しても良い）

HIGH Melody Tutti ゆったりと

Musical notation for HIGH Melody Tutti. The first system (measures 1-6) is in 3/4 time, starting with a treble clef and a key signature of one sharp (F#). The melody consists of a series of notes with slurs and accents. The second system (measures 7-12) continues the melody, ending with a double bar line and repeat dots.

Brass Chords

**ハーモニー 2**と**セクション3**の時に、Brass Chords を金管楽器で、どこかで演奏すること。和音の音が全部演奏されるように。繰り返しても良いが、あまり多く繰り返さないこと。Fluttertongueで吹きたい場合は、そうしても良いが、その場合は全員がそうするように。Brass Chordsを吹いていない奏者は、**ハーモニー2**や**Low Melody, High Melody** を演奏する。

Musical notation for Brass Chords. It shows a piano accompaniment with two staves (treble and bass clefs) in 4/4 time. The chords are marked with a forte 'f' dynamic and are held for several measures.

**セクション3**の時に、何回も繰り返して、SOLO Melody D, E, F, Gを弾くこと。

全体の感じは「狂気」、Manicな感じ。

SOLO Melody D

速いテンポで、ちょっとナーヴァスに。

Musical notation for SOLO Melody D. It is a single staff in 4/4 time, starting with a treble clef and a key signature of one sharp. The melody is fast and features a forte 'f' dynamic.

SOLO Melody E

速いテンポで、ちょっとナーヴァスに。

Musical notation for SOLO Melody E. It is a single staff in 4/4 time, starting with a treble clef and a key signature of one sharp. The melody is fast and features a forte 'f' dynamic. There are triplets indicated by the number '3' below the notes.

SOLO Melody F

速いテンポで、ちょっとナーヴァスに。

Musical notation for SOLO Melody F. It is a single staff in 4/4 time, starting with a treble clef and a key signature of one sharp. The melody is fast and features a forte 'f' dynamic. An 8va (octave up) marking is present at the beginning.

SOLO Melody G

速いテンポで、ちょっとナーヴァスに。

Musical notation for SOLO Melody G. It is a single staff in 4/4 time, starting with a treble clef and a key signature of one sharp. The melody is fast and features a forte 'f' dynamic. An 8va (octave up) marking is present at the beginning.